

**ジョリパット不燃
JQ-200シリーズ
横こだち仕上げ
施工の手引き**

平成19年5月【初版】

令和 2年3月【改訂】

**アイカ工業株式会社
化成品カンパニー**

<使用材料>

材 料	商 品 名	概 要	荷 姿	標準施工面積
シーラー	ジョリパットシーラー JS-500	水性タイプ アクリル系 1液型透明シーラー	18kg石油缶	約51.4㎡/缶
主 材	ジョリパット不燃 JQ-200 シリーズ 標準色 JQ-200、JQ-□□□□ (□…数字) 特注色 JQ - 200△○○○ (△…英字、○…数字)	アクリル共重合樹脂 水性仕上塗材	20kg ^レ 缶	約 8㎡/缶

<主な施工道具>

- ・ ステンレスゴテ (下塗り)
- ・ 専用ぼうき(JR-62X)
- ・ ヘッドカッターローラー (平面用 ジョリパットローラー JR-26)
(隅 用 ジョリパットローラー JR-27)

<下地調整>

標準下地は、石膏ボード (プラスターボード) 又はモルタルとする。

<横こだち仕上げ施工方法>

1. シーラー塗布

配 合	JS-500	18kg
	清 水	18ℓ
塗 布 量	0.07kg/m ²	
施工方法	ローラー刷毛又はスプレーガン	

3時間以上48時間以内

2. 主材 下塗り

- ・ ジョリパット不燃を無希釈で0.8kg/m²となるようステンレスゴテで擦るように塗布する。

夏期 4時間以上

冬期 12時間以上

◎乾燥を確認後、次工程に移って下さい。

3. 主材 配り塗り

- ・ ジョリパット不燃を無希釈で約1.5kg/m²となるようステンレスゴテで塗布する。

追かけ塗り（5分以内）

4. パターン付け

- ・ 配り塗りした主材が乾燥しないうちに、パターン付け専用ぼうきJR-62Xで軽く押さえる様にし、左端から右へ引いてパターン付けをする。（右端部が入隅等の場合は前もって右から左にパターンを付けておく）。
- ・ 塗り継ぎの部分は、出来るだけJR-62Xの目を合わせ、1回ごとに位置を変え、ちどりに塗り継ぎをし、一カ所に集中しないようにする。
- ・ JR-62Xは水で常に濡らし、ほうきに付着したジョリパット不燃はその都度（頻繁に）取り除く。

追かけ塗り（5分以内）

5. ヘッドカット

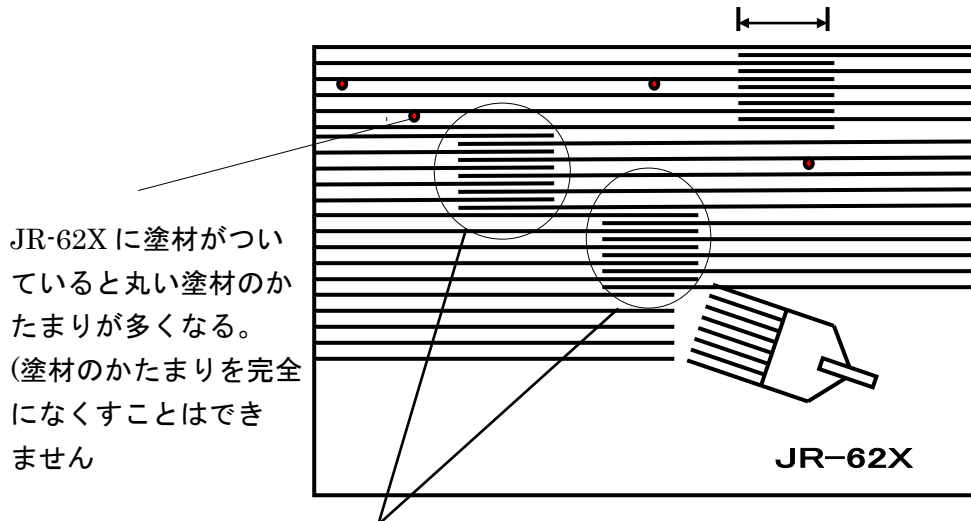
- ・ 灯油に浸したカットローラー（JR-26,27）で軽く押さえる。

24時間以上放置して乾燥させる。

<施工のポイント>

- ・ JR-62X を壁面に対して斜めにあて、ジョリパット不燃の表面を軽く削る。一つのパターンの長さは1m程度で、パターンをつなぐ時は、先に付けたパターンに30cm程度重なるようにする。(図-1、2)

30cm ぐらい重ねるとつなぎ部分が
わかりにくくなる



パターンのつなぎはちどり状にする。(同じ箇所につながない)

図-1

塗り継ぎ部

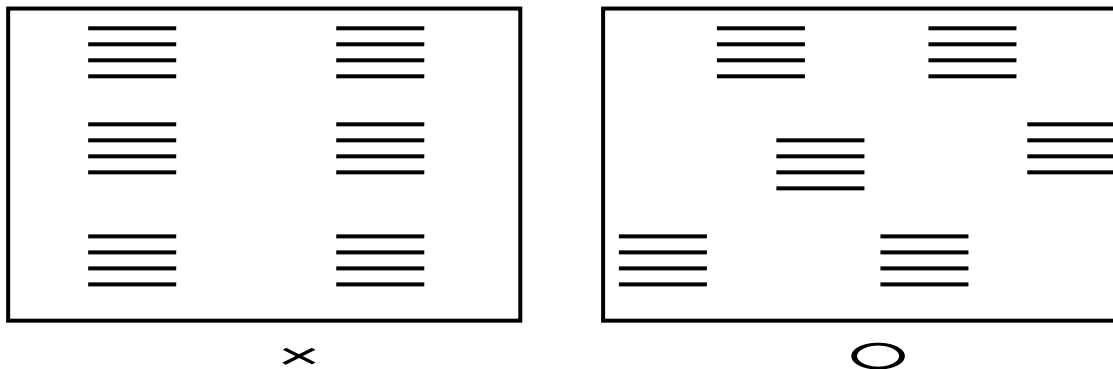


図-2

- ・ JR-62X の先端に付着したジョリパット不燃は、濡れウエスなどで取り除き、常にきれいに保つ。(ジョリパット不燃の玉が壁面に残りにくくする為)
- ・ 配り塗りはできるだけ**均一**に配って下さい。配り塗りが不均一の場合、パターンにムラが出る場合があります。
- ・ ほうきには必ず**JR-62X** を使用して下さい。他のほうきではパターンが出ない場合があります。
- ・ 塗布量が少ない場合、溝が浅くなり、パターンがはっきりとでなくなります。

<直線模様を施工する場合>

◎目安となる基準線を出す

1. ジョリパット不燃を全面下塗りした後、乾燥してから基準線を出す為、墨出しを行う。
2. 墨出しの線に沿って、釘を等間隔に打ち込み、水糸を張って基準線を出す。
(図-3)

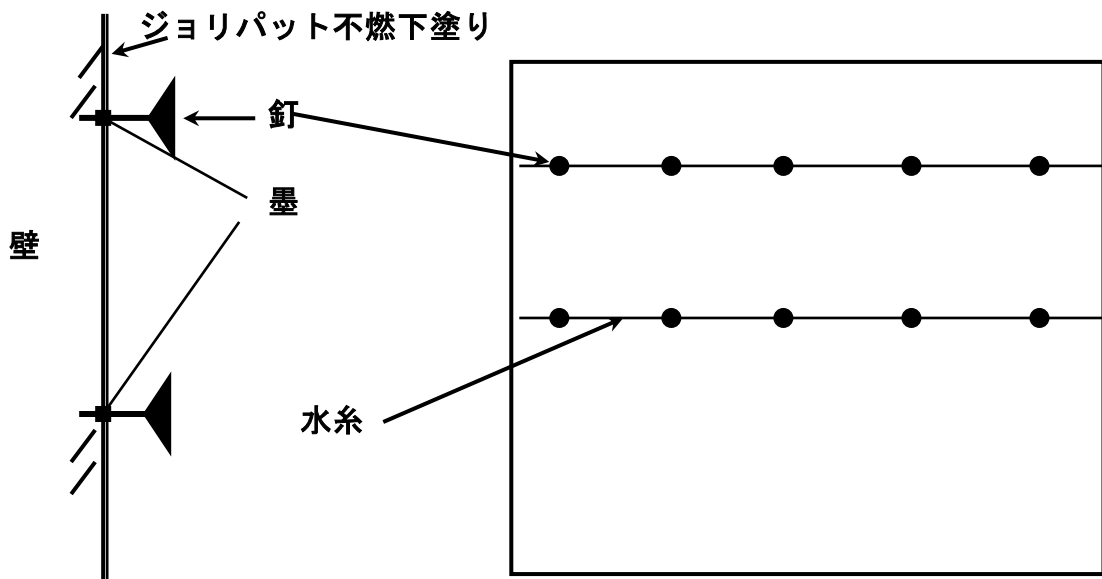


図-3

3. 水糸に沿ってパターン付けを行なう。釘の穴は、ジョリパット不燃をタッチアップして埋める。

＜施工の注意事項＞

- ・ 施工場所の気温が5℃以下、湿度85%以上の場合、原則として施工を行わないで下さい。やむを得ず施工する場合は、採暖などの養生を行って下さい。
- ・ 施工前に必ずコンパネ等で試し塗りをを行い、仕上がり、乾燥性を確認して下さい。
- ・ 乾燥が比較的速いため、塗り継ぎ時間に注意して下さい。（特に大面積を施工する場合は、作業人工や化粧目地による分割を検討して下さい。）
- ・ 塗板見本及び現場施工時のパターンの状態を、施主等の責任者の承認をいただいた上で施工を進める。

以 上